

JGAS 2009

事業報告書



目 次

ごあいさつ「JGAS2009を終えて」	2
開催概要	3
開会式	4
開会式	4
主催者挨拶	5
ご祝辞	6
セミナー・シンポジウムなど	8
1. 特別講演 「産業博物館がめざすもの」	8
2. 特別講演 「科学技術創造立国と製造業～マイクロ化学チップに関連して～」	8
3. 環境シンポジウム	9
4. セミナー 印刷技術の標準化（日本印刷産業機械工業会、ISO/TC130国内委員会主催）	10
5. 第11回アジア・パシフィック印刷技術フォーラム（社団法人日本印刷技術協会主催）	11
6. 全印工連フォーラム（全日本印刷工業組合連合会主催）	12
7. 全国印刷メディア協議会（全日本印刷工業組合連合会主催）	12
8. 印刷業界就職説明会（東京グラフィックスサービス工業会主催）	12
特設展示コーナー	15
1. 環境コーナー（日本印刷産業連合会／印刷機材団体協議会共催）	15
2. JAPAN COLOR認証制度コーナー	15
3. 先進技術ゾーン	16
展示会状況及び結果	17
1. 出展者数および小間数	17
2. 来場者に関する集計	17
3. 来場者アンケートによる分析	18
4. 廃棄物、インフルエンザ対策	19
5. 主な広報宣伝活動	20
6. 出展者アンケートの集計	21
7. JGAS2009出展企業一覧	24
JGAS 2009運営組織	30



JGAS2009を終えて



印刷機材団体協議会
会長 小森 善治

総合印刷機材展JGAS 2009は「印刷が創る未来、守る環境」を統一テーマに、2009年10月6日(火)から10月10日(土)まで、東京ビッグサイト(東1, 2, 4, 5ホール)を使用して開催いたしました。

今回のJGAS2009は、未曾有の経済危機の影響で、出展者数252、小間数1,625と前回の約3分の2の規模での開催となりましたが、プリントメディアが持つパワーや役割、その可能性を追求した未来志向のソリューション、持続可能な発展を目指した環境対応などについて、世界をリードする多数の企業から出展をいただきました。

ご来場者につきましては、初日、2日目の雨、また3日目の大型台風の来襲にもかかわらず、来場者数は目標を達成する69,881人、海外からのお客様も36カ国から1,468人をお迎えし、現状打破のための何かヒントがないか、熱心に情報探索するお客様が目につきました。

また、JGAS特別企画である特別講演会、国際フォーラム、多彩なセミナーやシンポジウム、特別展示にも非常にたくさんの方々が、連日、熱心に聴講され、好評裡に終了することができました。

今回のJGASは、経済危機、新型インフルエンザ、悪天候など、逆風下での開催となりましたが、関係各位の格別のご支援・ご協力をいただき、無事盛況裡に閉会することができました。厚く御礼申し上げます。

弊協議会では、国際総合印刷機材展IGAS2011を2011年9月16日(金)から22日(木)までの7日間、東京ビッグサイト全館を使用して開催する予定です。多数の皆様のご出展、ご来場をお待ち致します。

今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。

- 名 称** JGAS 2009 (総合印刷機材展)
 Japan Graphic Arts Show 2009
- 開催趣旨** 本展示会は、最新の印刷・紙工・デジタルグラフィックスに関する機材・技術を一堂に会した総合印刷機材展であり、ユーザーへのソリューション提案や将来の印刷産業や技術動向について理解を深める場を提供すると同時に、人材の国際的交流を図り、印刷関連業界の活性化や興隆に貢献致します。
- テ ー マ** 印刷が創る未来、守る環境
 The Print Media, Creating our Future & Protecting our Environment
- 会 期** 2009年10月6日(火)~10日(土) 5日間
- 開場時間** 10:00~17:00 (最終日10月10日は16:00まで)
- 会 場** 東京ビッグサイト
- 出 展 者** 252社
- 展示規模** 1,625小間 (14,316㎡)
- 展示総面積** 51,380㎡
- 入 場 料** 1,000円 (通し券)
 事前登録の場合 500円
- 主 催** 印刷機材団体協議会 (JGASC)
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8
 機械振興会館401-2号室
 社団法人 日本印刷産業機械工業会 内
- 後 援** 経済産業省、東京都、日本貿易振興機構 (ジェトロ)
 社団法人日本印刷産業連合会、全国段ボール工業組合連合会
 全日本紙器段ボール箱工業組合連合会
- 出展参加国** 19カ国・地域
 ベルギー・カナダ・中国・チェコ・フランス・ドイツ・インド・イスラエル・イタリア・韓国・オランダ・ロシア・スペイン・スウェーデン・スイス・台湾・英国・アメリカ・日本



開会式

開会式

会期初日の10月6日9時30分より、JGAS2009の開会式がご来賓の方々のご臨席のもとに実施された。

日時：平成21年10月6日(火) 9:30~10:00

場所：東京都江東区有明3-2-1

東京ビッグサイト 東2ホール前ガレリア

1. 開会の挨拶

印刷機材団体協議会 会長 小森 善治

2. ご祝辞

経済産業省 製造産業局長 平工 奉文 殿

社団法人 日本印刷産業連合会 会長 山口 政廣 殿

3. テープカット

経済産業省 製造産業局長 平工 奉文 殿

経済産業省 製造産業局産業機械課 課長 米村 猛 殿

社団法人 日本印刷産業連合会 会長 山口 政廣 殿

全日本印刷工業組合連合会 会長 水上 光啓 殿

日本フォーム印刷工業連合会 会長 秋山 正法 殿

印刷機材団体協議会 会長 小森 善治





印刷機材団体協議会
会長 **小森 善治**

本日は大変お忙しい中、JGAS2009開会式にご出席を賜り誠に有難うございます。

本日より5日間にわたって、総合印刷機材展JGAS2009を開催致します。

今回の統一テーマは「印刷が創る未来、守る環境」です。プリントメディアが持つパワーや役割、その可能性を追求した未来志向のソリューション、持続可能な発展を目指した環境対応などについて、世界をリードする多数の企業から出展をいたします。

今回のJGASは、東京ビッグサイト東館1,625小間に、252社が出展をいたします。これは先回2005年の約3分の2であり、未曾有の経済危機の影響をまともに受けた厳しい経済環境を如実に示しております。しかしながら、展示内容は大変充実した内容になったと自負しております。世界最大の印刷機材展drupaが、昨年、ドイツで開催されました。ここで発表された数々の新技術がどこまで進化したのか、次の成長のために必要な新製品・新技術は何か、それを具体的にどう取り入れるのか、これらについて、このJGASでじっくりと見極め、危機克服の足掛かりにしていきたいと思います。

今回のJGASでは、一般展示の他にも、さまざまな特別企画を主催者として実現いたしました。展示会場では、全国の大学研究室で開発中の先進技術を紹介する「先進技術ゾーン」、JGASのテーマである「環境コーナー」、話題の「Japan Color認証制度」コーナー、世界の印刷産業機械工業会を紹介する「Global Print コーナー」などがあります。また、会議棟では特別講演、シンポジウム、セミナーが、毎日、目白押しで開催されます。

JGASでなければ実現できない、特別展示や貴重な講演であり、ぜひとも、お見逃しなくように足をお運びいただきたいと思います。

期間中の来場者数は6万人を見込んでおり、海外からのご来場者も多くお越しになると聞いております。私ども主催者一同は、出展者の皆様、および、ご来場者の皆様、双方にとって実りある充実した展示会となるよう、万全の努力をいたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

本日はまことにありがとうございました。

ご祝辞



経済産業省 製造産業局長
平工 奉文 殿

ただ今ご紹介いただきました経済産業省製造産業局長の平工でございます。本日ここに、「JGAS2009」が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、一言御挨拶申し上げます。

本展示会は、IGASと交互に開催される国際的な総合印刷機材展であり、国内はもとよりアジア近隣諸国からも広く注目を集めております。

他方、世界経済は昨年9月のリーマンショックを契機として急速に減速し、今年の春以降漸く一部に持ち直しの動きが見られるものの、本格回復にはなお時間を要するものと見込まれます。

こうした中で閉塞感を打破し、より大きな発展を図るためには、環境問題など時代の要請に的確に対応し、より大きな需要を創出していくことが不可欠です。

今回の展示会は「印刷が創る未来、守る環境」を統一テーマに掲げられ、印刷業界の明るい未来を開いていくための様々な提案、方向性を具現化した展示、実演及び特別企画・イベントなどを多数盛り込まれた、大変充実した展示会と伺っており、まさに時宜を得たものであります。

産業を取り巻く情勢が厳しい中、このように盛大に本展示会が開催できましたことは、小森

会長はじめ、印刷機材業界の皆様を始めとする関係各位の熱意と御努力のたまものであり、改めて、深く敬意を表する次第であります。

また、本展示会では、特に「プリントメディアの価値創造」という視点で、例えばユーザーからの多品種、小ロット等のニーズに対応するため、デジタルワークフローの構築による生産合理化への様々な取組が行われております。

さらに、「最先端の環境対応技術」という視点では、印刷産業機械に起因する有機溶剤等の化学物質や騒音・振動等の環境負荷の低減に向けた取組みから、地球温暖化防止のためのCO₂削減技術に至るまで、幅広く社会的な要請に的確に応える印刷産業の製品が一堂に会し、数多く展示されていると伺っており、本展示会が、印刷技術の新たな可能性を切り開いていくものになると期待しております。

経済産業省といたしましても、引き続き景気対策に万全を期すとともに、皆様のこうした取り組みを今後とも積極的に支援してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本展示会の御成功と、これを契機とした我が国の印刷機材業界の益々の御発展、そして本日お集まりの皆様方の益々の御健勝を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。



社団法人 日本印刷産業連合会
 会長 **山口 政廣** 殿

ご紹介いただきました、日本印刷産業連合会の山口でございます。

本日、総合印刷機材展「JGAS2009」の開会にあたり、一言お祝いを申し上げます。

今回のJGASは「印刷が創る未来、守る環境」を統一テーマとして掲げられ、最新技術を駆使した多くの機械や製品が展示されるとお聞きしております。大変厳しい経済情勢下、開幕をお迎えになるまで、主催者並びに関係の皆様方の多大なご努力に対し、深く敬意を表します。

さて、今日、日本社会は少子・高齢による人口の減少、加速する情報化とグローバル化の進展など情勢が変動しており、印刷産業を取り巻く事業環境にも大きく影響を与えております。そのため、今後の需要マーケットや技術革新の動向などを的確に見定め、事業領域の拡大を図り、業界基盤の強化に努めることが重要と考えます。

その観点から、印刷産業が抱える生産システムにおける課題解決に、JGASの果たす役割は誠に大きいものがあります。同時に、印刷産業が今後進むべき方向性や技術指針を策定する上にも的確な示唆が得られるものと期待を寄せております。

私ども日本印刷産業連合会は、会員10団体とともに英知と力を合わせ、現下における未曾有の経済危機を乗り越え、さらなる業界発展のため、一層努力してまいります。何卒皆様のご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、JGAS2009の輝かしいご成功と、印刷機材団体協議会並びに出展各企業の、ますますのご発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



セミナー・シンポジウムなど

1 特別講演 「産業博物館がめざすもの」



樺山 紘一 氏

プロフィール
東京大学文学部名誉教授
[専門] フランス中世史、西洋中世史、西洋文化史
1990年 東京大学文学部教授（98年 文学部長）
2001年 国立西洋美術館館長
2005年 印刷博物館館長



講師が館長を務める東京・小石川にある印刷博物館では、歴史的遺産として貴重な印刷の機械や製品を収蔵・展示している。全国には、これと同様の趣旨で産業遺産をコレクションする多数の「産業博物館」があり、いま話題となっている。近代印刷と人間文化発展についての著作や講演で高名な講師が、今回は印刷博物館をはじめとする産業博物館の役割や課題について考察した。

2 特別講演 「科学技術創造立国と製造業～マイクロ化学チップに関連して～」



北森 武彦 氏

プロフィール
東京大学 大学院工学系研究科 副研究科長・教授
[専門] 応用分光分析、レーザー分光化学、マイクロ・ナノ化学
1980年 日立製作所入社 エネルギー研究所研究員
1998年 講師、助教授を経て東京大学工学部教授
2008年 東京大学評議員、東京大学工学系研究科副研究科長



科学技術創造立国を掲げる我が国において、今や産業だけでなく学術や社会をも支える物造り技術と製造業。その範囲はハードからソフト製造におよぶが、製造に伴う環境負荷問題、製造を支える高度科学技術人材と少子化問題、欧米との連携を強める海外製造拠点の国際化など、将来を見据えて解決すべき課題も多い。

一方、マイクロ化学チップとよばれる新しい技術がある。化学分析装置や化学プラントを半導体素子のようにデバイス化する技術である。新しい技術で我が国の国際的レベルも高くこれからの展開が期待される。講演ではこの技術を取り上げ、将来の製造業の諸問題との関連について紹介した。

3 環境シンポジウム

環境シンポジウム「環境世紀の企業戦略」

第1部：特別講演

印刷産業の新しい競争軸 - 地球環境問題への挑戦を好機と捉えるために -



MR. PETER DAVID PEDERSEN
 (ピーター・デイヴィッド・ピーダーセン氏)

プロフィール

株式会社イースクエア 代表取締役社長

1967年デンマーク生まれ、コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。環境経営コンサルタントの後、企業のCSR・環境コンサルティングを手がける株式会社イースクエアを設立。

地球環境の深刻化と社会の関心の高まり、企業をとりまく環境はどのように変化しているのか、先進企業はその変化をどう捉え競争力に変えようとしているのか、環境革新・持続可能性の追求という第五の競争原理が台頭する環境世紀における新たな企業価値の創出について紹介した。



第2部：講演

印刷現場の環境管理



寺田 勝昭 氏

プロフィール

P&Eマネジメント代表

元共同印刷(株)環境管理部長

日本印刷産業連合会グリーン基準や環境優良工場表彰制度の創設に尽力、JQAの環境スペシャリスト、水なし印刷研究会顧問、東京都VOC対策アドバイザー、GP工場認定審査員など、印刷業界の環境スペシャリストとして主導的役割を務める

印刷工場から発生する騒音、振動、悪臭、VOC廃棄物等の環境管理のポイントから、資機材のグリーン調達、製造工程のグリーン化、最近注目の地球温暖化防止のためのCO₂削減活動やカーボンフットプリント等の自主取り組みまで、現場で役立つ最新環境対策を紹介した。

セミナー・シンポジウムなど

4 セミナー 印刷技術の標準化 (日本印刷産業機械工業会、ISO/TC130国内委員会主催)

印刷技術の標準化について第1部はJapan Color認証制度について、第2部はISO規格の最新情報についてのセミナーを開催。

第1部：Japan Color認証制度セミナー



当日は雨にもかかわらず開始前から受講者が詰めかけ、セミナー開始時には立ち見が出るなど、受講定員をはるかに上回る盛況であった。

Japan Color認証制度 策定委員会委員長の西岡貞一氏（筑波大学大学院教授）よりJapan Color認証制度の背景、意義などを解説。後半は、社団法人日本印刷産業機械工業会 事務局長 長沼勉氏からJapan Color認証制度の審査内容・基準、認証料金等の概要説明があった。質疑応答では、認証を取得するにはどうすればいいのかの質問のほかにも、デジタル印刷にも認証制度を広げてしてほしいなどの要望があり、認証制度への期待が高いことを示した。



第2部：第14回ISO/TC130（印刷技術）講演会

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| 1. ISO/TC130（印刷技術）の国内委員会報告 | 14：45～15：00 |
| 福田 隆文氏 ISO/TC130国内委員会委員長 長岡技術科学大学 准教授 | |
| 2. 印刷用語と文字校正記号の国際標準化 | 15：00～15：20 |
| 真田 整氏 JWG1 主査 凸版印刷株式会社 | |
| 3. デジタルデータ交換に関する報告 | 15：20～15：40 |
| ト部 仁氏 JWG2 主査 富士フイルム株式会社 | |
| 4. 工程制御と関連計測標準の動向 | 15：40～16：00 |
| 瀧田 宏明氏 JWG3 主査 大日本印刷株式会社 | |
| 5. 記録媒体と印刷材料に関する報告 | 16：10～16：30 |
| 松尾 正明氏 JWG4 主査 東洋インキ製造株式会社 | |
| 6. 印刷機械システムの安全に関する国際規格の報告 | 16：30～16：50 |
| 福田 隆文氏 JWG5 主査 長岡技術科学大学 准教授 | |



5 第11回アジア・パシフィック印刷技術フォーラム（社団法人 日本印刷技術協会主催）

アジア・パシフィック地域の7カ国*の印刷産業の代表機関が一同に会してのFAGAT（アジア・パシフィック印刷技術情報フォーラム）が、10月5日～7日の3日間にわたり開催された。JGAS開催期間の6日、7日東京ビッグサイトの会議棟で下記の催しがあった。

アジア7カ国*の印刷業界トップによる各国印刷事情報告

アジアは世界経済の牽引車となり、それに伴いアジアの印刷産業も目ざましい発展を遂げ10年前とは大きく様変わりしてきている。グローバル化の中で、各国の印刷業界の関係や競争状況も日々めまぐるしく変貌している。

日本の印刷産業もまた、国内印刷需要の海外流失懸念の観点からではなく、顧客満足度向上さらには発展するアジアの印刷市場自体を自らの発展に結びつけることを考える時代になった。このセミナーでは、加盟7カ国が各国の印刷産業の状況を報告するとともに、アジアの印刷産業全体がひとつの共同体として発展するための標準化、環境問題への協働対応などについて、具体的提言に基づいて討議した。FAGAT加盟国からは、各国の印刷工業組合、印刷技術協会のトップが参加した。

10月6日(火):「カントリーレポート」

11:00～12:00 基調講演

「日本の印刷産業の現状とアジアの印刷産業への貢献」

社団法人日本印刷産業連合会会長 山口 政廣 氏

13:30～16:30 FAGAT各国からの報告、提言

「FAGAT加盟各国印刷産業の現状報告とアジアの印刷産業への提言」

オーストラリア、中国、フィリピン、韓国、タイ、スリランカ

10月7日(水): 分科会

10:00～12:00 「新しい品質管理の考え方」

13:30～15:30 「環境問題対応の具体的アプローチ」



*2009年時点でのメンバーは、日本、韓国、中国、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、オーストラリア、スリランカの9カ国。今回のFAGATには、シンガポール、マレーシアを除く7カ国が参加。

セミナー・シンポジウムなど

6 全印工連フォーラム（全日本印刷工業組合連合会主催）

10月9日(金)東京ビッグサイト6階会議室において、全国より540名を超える聴講者を集めて「全印工連フォーラム2009」が開催された。フォーラムではマイケル・マーキン米国印刷工業会会長が、「金融危機後の米国印刷産業の動向と新たな挑戦」と題して、質疑を含めて約2時間にわたって講演が行われた。講演は米国経済と米国印刷業界の現状、今後の予測がデータをもとに説明され、新たなチャンスを探るための方向性が示されるなど、日本の印刷産業界にとって大変参考になるものとなった。



7 全国印刷メディア協議会（全日本印刷工業組合連合会主催）

第33回全国印刷メディア協議会が、「これだけは取り組みたい印刷会社の環境対策」と題して、寺田勝昭P&Eマネジメント代表（全印工連環境委員会特別委員）による講演が行われた。

- ・地球環境対策は経営者のほんき度
- ・足元を固めるには5Sと見える化
- ・環境保全是法規制の順守
- ・持続可能な管理はGP認定工場
- ・エコ印刷の提案とCO₂対策

などが取上げられた。



8 印刷業界就職説明会（東京グラフィックスサービス工業会主催）



東京グラフィックスサービス工業会は三浦澄雄氏（日本大学講師）および一川健二氏（ヒューネット）を講師に招き、「ジョブ・カード制度」をテーマに印刷業界向けの就職説明会を開催した。

9 出展者によるセミナー

JGAS出展者による各社の新製品や新技術に関するセミナーが東京ビッグサイト会議棟で開催され、会場は熱心に情報収集する聴講者で埋められた。

開催日	タイトル	時間	場所(会議棟)	主催
10月7日(水)	既設機から生まれる経費節減 KOMORI サービスからの提案	10:30~12:00	101会議室	(株)小森コーポレーション
	実録『職場診断から見える印刷のツボ』	13:30~15:30	101会議室	(株)小森コーポレーション
	Kodak インクジェット デジタル プリンティングセミナー ~インクジェット技術の進化と可能性~ 第一部:「Stream Technologyの検証 ~7月のデイトンでの発表イベントのサマリーと報告」 第二部:「インクジェットデジタルプリンティングがもたらす 新たな可能性」 第三部:「パーソナル化されたコミュニケーションの有効性」	13:30~17:00	605会議室	コダック(株)
10月8日(木)	海外の印刷会社におけるビジネスモデル	10:30~12:00	101会議室	(株)小森コーポレーション
	知っておかないと損する印刷業界のカーボンプリントの常識	11:00~12:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
	ヘキサクローム・ワークショップ	13:30~16:30	101会議室	(株)小森コーポレーション
	知っておかないと損する印刷業界のカーボンプリントの常識	14:00~15:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
	次世代インクジェットプレス『Jet Press 720(仮称)』の キーテクノロジー	16:00~17:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
10月9日(金)	LED-UV を中長期的なビジョンで捉える	10:30~12:00	101会議室	(株)小森コーポレーション
	知っておかないと損する印刷業界のカーボンプリントの常識	11:00~12:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
	印刷需要を生み出す「顧客戦略」	13:30~15:00	102会議室	コニカミノルタ グラフィックイメージング(株)
	経営者向け『予防保全を成功に導く経営者の役割』	13:30~15:30	101会議室	(株)小森コーポレーション
	次世代インクジェットプレス『Jet Press 720(仮称)』の キーテクノロジー	14:00~15:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
	知っておかないと損する印刷業界のカーボンプリントの常識	16:00~17:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
10月10日(土)	工場管理者向け『予防保全を成功に導く工場管理者の役割』	10:30~12:00	101会議室	(株)小森コーポレーション
	次世代インクジェットプレス『Jet Press 720(仮称)』の キーテクノロジー	11:00~12:00	703会議室	富士フイルム グラフィックシステムズ(株)
	現場オペレータ向け 『予防保全を成功に導く主役は印刷オペレータ』	13:30~15:30	101会議室	(株)小森コーポレーション

セミナー・シンポジウムなど

隣 出展者ビアパーティ

中日を過ぎた10月9日、出展者への慰労・懇親のためビアパーティを開催、出展者、主催者スタッフ、協力会社など約250人が参加した。

日時：平成21年10月9日(金) 17:30~19:00

場所：レストランニュートーキョー

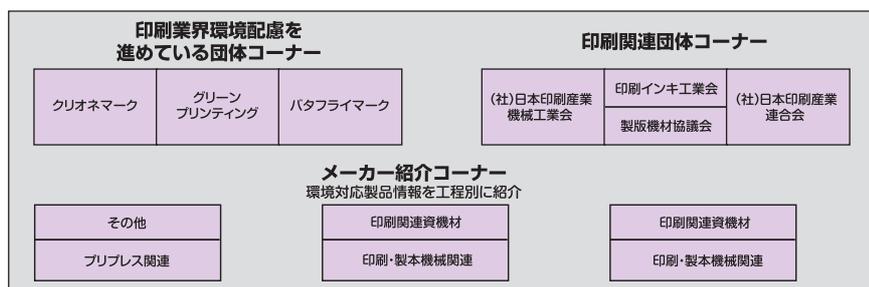
挨拶：印刷機材団体協議会 会長 小森 善治



環境コーナー（日本印刷産業連合会 / 印刷機材団体協議会共催）

統一テーマである“印刷が創る未来、守る環境”のもと、印刷関連団体の環境対応活動と主要メーカーの環境配慮製品など環境関連情報を集約し、ワンストップで情報収集ができるように「環境コーナー」を設置した。

会場を「JGAS2009出展企業の紹介」、「印刷関連業界団体の取組」、「環境配慮マーク制度を推進する印刷団体の紹介」の3コーナーに分けて、環境配慮に関するパネルと環境報告書・環境配慮製品リーフレットを展示。政府や業界団体の取組と企業の環境配慮型製品を紹介することで、来場者が環境問題への取組のヒントとするための展示を行い、多数の来場者が訪れた。



JAPAN COLOR 認証制度コーナー

「Japan Color認証制度」コーナーでは、会期前半の悪天候にもかかわらず、延べ1,000人以上の来場者が訪れ、非常に熱のこもった質問や要望を数多く受けた。

Japan Color認証制度は本年の7月以降に全国紙や業界紙へ記事を掲載、さらにJGAS2009に出展して直接来場者に説明できたことにより、印刷業界関係者の間で大きな反響を呼んだ。地方の来場者からはJapan Color認証制度の説明会を地方でも開催してほしいという数多くの要望があり、計画中である。



印刷会社及び発注者

品質基準の“共通の指標”



特設展示コーナー

先進技術ゾーン

印刷機材団体協議会が主催するIGASとJGASでは、研究機関が保有する技術シーズと、産業界の新しいニーズを結びつける産学交流の場として「先進技術ゾーン」を毎回設置、先進的な研究成果を印刷産業界に紹介し研究開発の産学交流を促進するための取り組みを展開している。今回の「先進技術ゾーン」は東5号館の本部事務局前に設置され、11の大学研究室が参加した。JGASを訪れた関係者には大学の研究を知ってもらい、研究者には印刷産業界の実態を認識してもらい、研究シーズと産業ニーズの交流が促進された。

小間番号	大学・研究室名	出展内容
E542	筑波大学 ILCセンター フルーション研究室	PDFデータの高圧縮・高精細復元、任意のサイズで印刷用データに変換する技術を実証システムで示す。
E543	千葉大学 大学院 融合科学研究科 (工学部情報画像学科) 視覚工学分野	人間の視覚情報処理メカニズムの中の、色覚のメカニズムに注目し画像工学への2つの応用例を紹介する。
E544	東京電機大学 エルゴノミクスデザイン研究室	電子書籍端末のユーザビリティに関する研究と、チラシ・フライヤーに関する人間工学的考察を紹介する。
E545	千葉大学 大学院 融合科学研究科 像感性工学研究室	画像から私達が受ける情報のうち、画質の感性効果を定量的に解析した研究を紹介する。
E546	東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター ディスプレイデザイン研究室 佐藤研究室	本学で開発した有機色素分散型ハイブリッドEL素子の試作品の展示とその応用に関する研究の紹介。
	東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター 電子画像研究室 内田研究室	非発光時には透明で、両面発光、折り曲げ可能な有機EL素子を試作品と解説パネルにて紹介する。
	東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター 色彩画像研究室 大井・東研究室	ソフトブルーフ・ディスプレイと印刷物の画像再現特性の検討など、印刷や画像に関する研究の紹介。
E547	千葉大学 環境リモートセンシング研究センター	地球の大気環境・植生環境など、高度な衛星データや関連地上データ解析の最新線を分かりやすく紹介する。
E549	千葉大学 大学院 融合科学研究科 情報科学専攻 北村・宮川研究室	薄くて軽く、持ち運び自由で、文字や画像の書換えが可能なカラー電子ペーパー技術を紹介する。
E550	東京大学 大学院 農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 製紙科学研究室	インクジェットシステムでの、インク固定メカニズム、メディアの新素材開発、バイオアプリケーションなどの研究紹介。
E551	千葉大学 大学院 融合科学研究科 画像マテリアルコース 小関研究室	画像記録材料の物性評価、液晶マイクロカプセル・UV硬化型インクジェットインクなどの材料設計に関する研究紹介。



1. 出展者数および小間数

景気低迷の影響で出展者総数および小間数ともに前回の3分の2となり、海外からの出展者数も減少した。

	JGAS2009		(参考) JGAS2005	
	社数	小間数	社数	小間数
国内出展企業数	238	1,605	327	2,720
海外直接出社者数	7	19	15	26
海外工業会 共同出展の海外企業	7	1	8	4
合計	252	1,625	350	2,750
共同出展社数	30	-	35	-
海外出展参加国数	19		21	
直接出展参加国数	6		8	
展示ホール数	4(東1、2、4、5ホール)		6(東全6ホール)	

2. 来場者に関する集計

(1) 総来場者数

IGAS2007で採用したバーコードを利用した入場システムを使った。バーコードリーダーで読み取った情報はパソコンに集約され、入場者数などの集計は迅速に行われた。

日付	天気	総来場者数	海外からの来場者数
10月6日(火)	雨	9,221	367
10月7日(水)	雨	14,661	389
10月8日(木)	雨のち晴れ	8,937	267
10月9日(金)	晴れ	21,465	321
10月10日(土)	曇り一時雨	15,561	124
		累計 69,881	累計 1,468

来場者数はバーコードで計数した実数で、通日重複なしで集計。

(2) 前回(2005年)との比較

		JGAS2009		(参考) JGAS 2005	
来場者総数		69,881		118,418	
海外来場者		人数	国数	人数	国数
総数		1,468	36	3,204	41
内訳	アジア	1,286	12	2,864	14
	アメリカ	36	5	68	2
	欧州(NIS含む)	79	11	146	15
	大洋州	12	1	41	2
	インド・中東	53	5	96	8
	アフリカ	2	2	5	2
	不明	0		25	

(3) 海外からの来場者

海外の来場者数は前回の約半分1,468人であった(国数で5減)。地域としては韓国、中国、香港、台湾などのアジア地区からの来場者が海外来場者の85%以上を占めた。アジアの中ではベトナムやミャンマーの来場者がIGAS 2007から増え続けている。(国別の来場者数はJGASホームページに掲載)

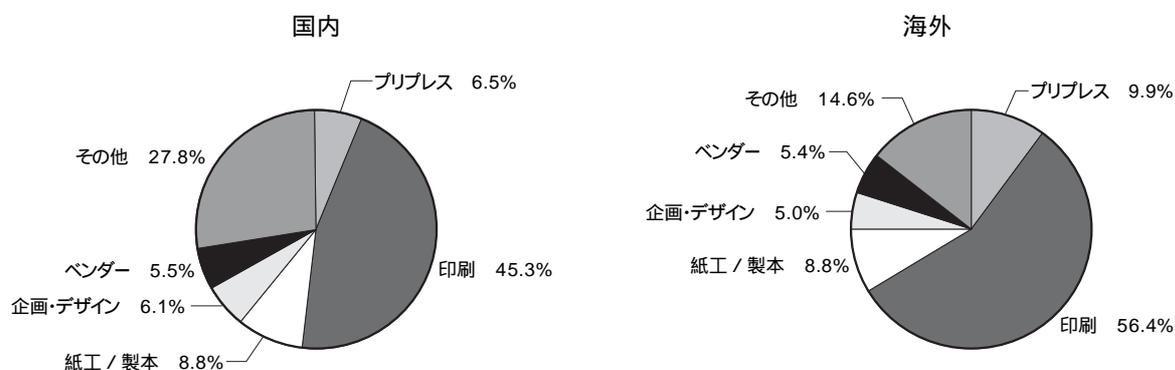
http://www.jgas.jp/jap/about_report2009.html

3. 来場者アンケートによる分析

(1) 来場者の業種

業種別に分類した国内と海外の来場者の割合を下図に示す。

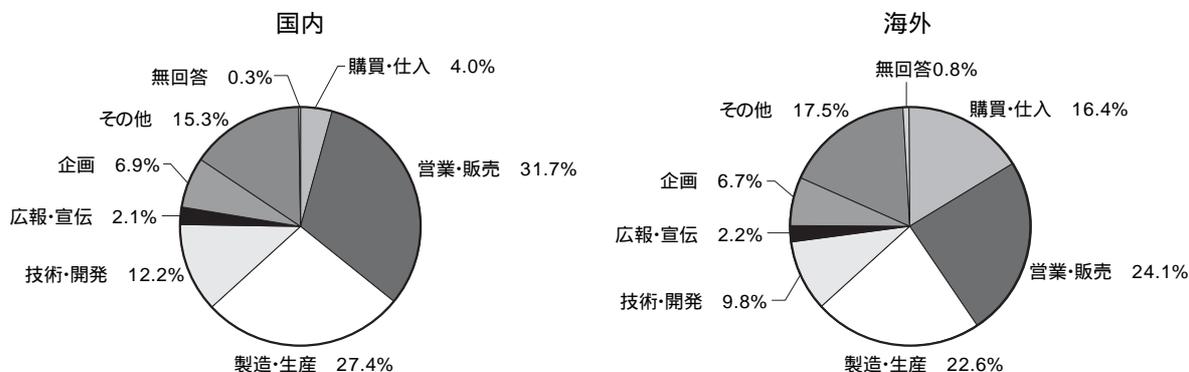
国内来場者は印刷関連業種が72%を占めるのに対し、海外来場者での印刷関連業種は85%であり、特に印刷業の来場者が多いのが特徴である。



(2) 来場者の職種

職種別に分類した来場者の分布を下図に示す。

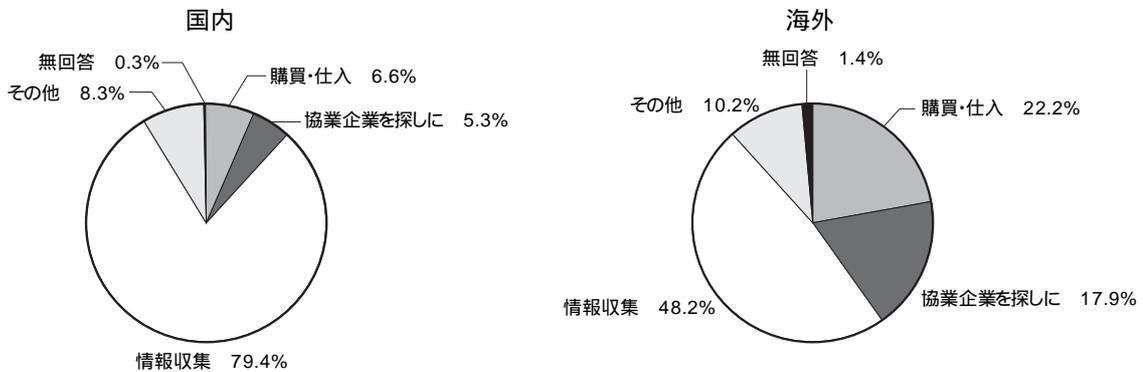
国内の来場者は「営業・販売」「製造・生産」「技術・開発」が上位3職種であるのに対し、海外からの来場者は「営業・販売」「製造・生産」「購買・仕入れ」が上位3職種で、海外からの「購買・仕入れ」が国内に較べて、目立って多いのが特徴である。



(3) 来場の目的

来場目的別に分類した来場者の分布を下図に示す。

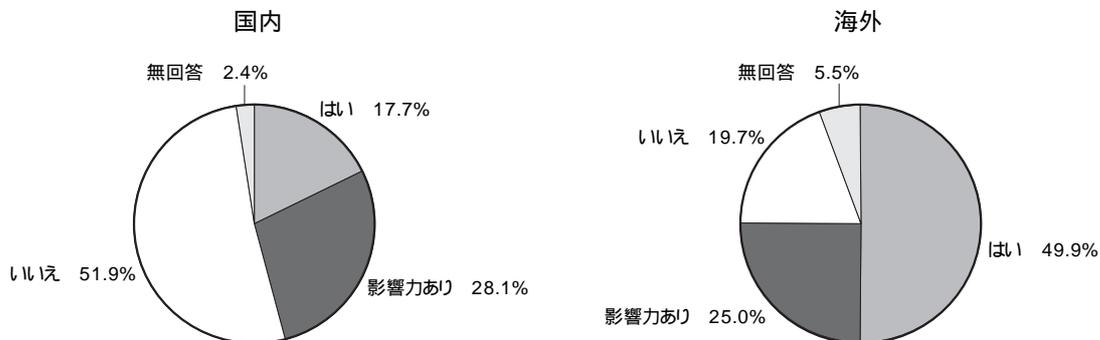
国内海外ともに、情報収集を目的とする人が最も多いが、海外来場者は「購買・仕入」と「協力企業探し」を目的とする人が国内に比しかなり多いのが特徴である。



(4) 購買決定権の有無

購買の決定権がある入場者（つまり経営者・購買責任者等）の集計結果を下図に示す。

「購買決定権又は影響力がある」と回答した人は、国内では約半数であるのに対し、海外では4分の3あるのが特徴である。



4. 廃棄物、インフルエンザ対策

会場である東京ビッグサイトの担当部署と協働し、展示会で発生するごみの減量化とリサイクルの推進、ごみ出しの分別化などを出展者をお願いした。

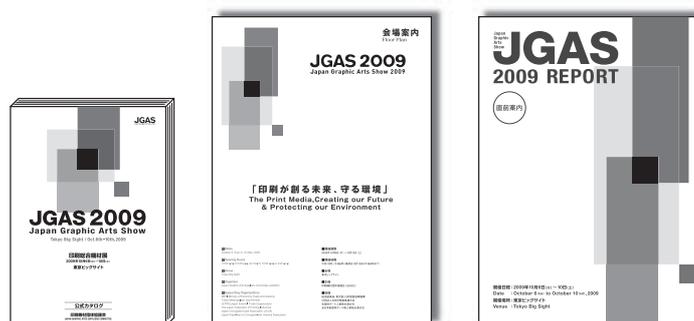
また流行の兆しが叫ばれている新型インフルエンザ対策として各ホール入口に消毒用ハンドクリーナーと注意喚起のパネルを配備し来場者に利用していただいた。万々に備えて使い捨てマスクも大量に準備したが、幸いなことに使用せずに済んだ。

5. 主な広報宣伝活動

(1) 広報宣伝印刷物

- ・ JGAS2009ポスター（A全） 2008年4月作成、drupa2008より使用開始
- ・ JGASレポート 2009年8月発行 JGAS最新情報（開催イベント、出展者情報等）
- ・ 入場招待券 2009年6月有料配布
- ・ 公式カタログ 会場にて有料（¥1,000）頒布
- ・ 会場案内（会場にて無料配布）

全出展者を図示した小間割図およびイベント案内。



(2) JGAS2007ホームページ <http://www.jgas.jp>

時期	掲載内容
2008年8月	JGAS2009 ホームページ開設
2008年11月	出展募集開始
2009年4月	出展募集締切り
2009年6月	出展者説明会・出展者向け事務局ニュース配信開始
2009年7月	出展者情報・小間割図開示 入場券予約オンライン受付開始
2009年8月	セミナー受講オンライン受付開始



(3) 新聞・雑誌広告

国内の業界団体機関誌、業界専門紙・誌、および日刊紙などに広告を掲載

（2009年3～9月、総計14紙26回、9誌14回）



(4) 国際展示会での出展・来場誘致活動

展示会名	開催期間	開催地
PRINT PACK INDIA 2009	2006年1月22～25日	インド ニューデリー
CHINA PRINT 2009	2009年5月12～16日	中国 北京

(5) 印刷業界ユーザー団体への案内

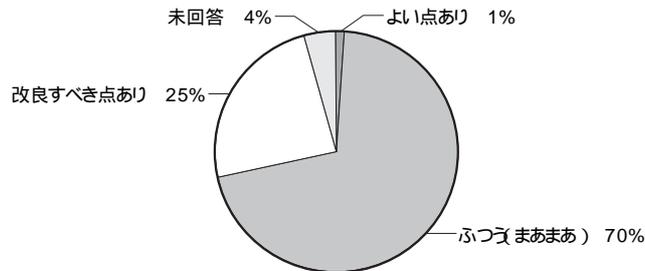
社団法人 日本印刷産業連合会、全日本印刷工業組合連合会、東京都印刷工業組合、東京都製本工業組合、日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会、社団法人 日本グラフィックサービス工業会、社団法人 東京グラフィックサービス工業会など、印刷業界団体に対して出展・来場協力のご案内と働きかけをした。

6. 出展者アンケートの集計

全出展者にアンケートをお願いし、90%の出展者から回答いただいた。下記にご意見、ご要望などの集計結果を掲載する。

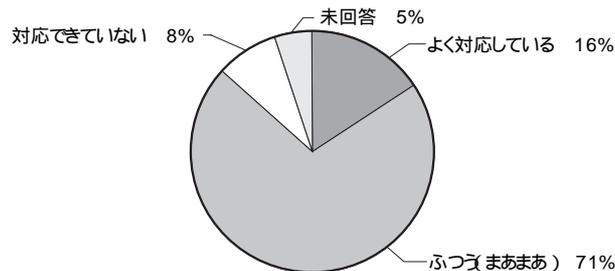
(1) 運営方法について

「改良すべき点あり」が4分の1あり、ご意見をもとに今後さらなる改善をしていきたい。



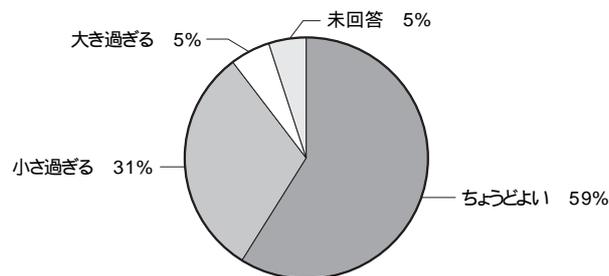
(2) 事務局の対応について

約9割の方が「よく対応している」「ふつう」と評価しているが、「対応できていない」のご意見をもとに、きめ細かいサービスができるよう、今後さらなる努力をしていきたい。



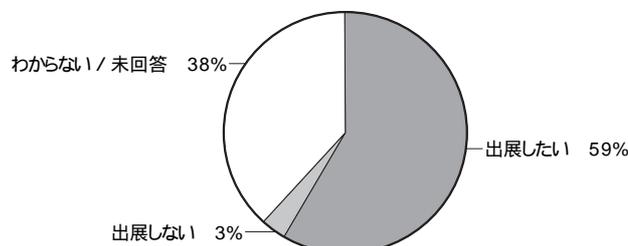
(3) 展示規模について

今回のJGASはビッグサイト東館の4館のみの開催であったためか、規模が「大きすぎる」との意見はほとんどなく、「小さすぎる」という意見が多かった。



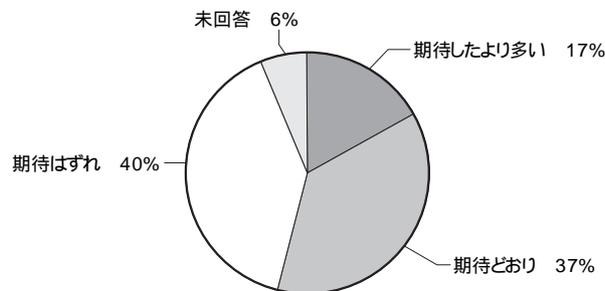
(4) IGAS 2011に出展したい

IGAS2007終了時に比べ「出展したい」が減り、「分らない/未回答」が増えた。現在の景気低迷による先行きの不透明感が大きな要因と考えられる。



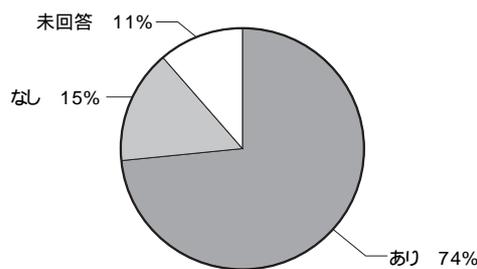
(5) お客様の入り

会期中前半の雨や台風による悪天候の影響で来場者数は伸びなかったが、台風通過の3日目午後から予想を上回る来場者数を記録し、累計69,881人となり、目標を達成することができた。但し、4割が期待外れとの回答であり、次回の課題である。



(6) 引き合い

今回は引き合いの有無を質問項目とした。約3/4が引き合い有ったとの回答で、小間の大きな出展者ほど引き合いが多い傾向にあった。



(7) 運営方法と事務局の対応についてのご意見

【よい点あり、よく対応している】

- ・事務局の対応はきめ細かくとてもよかった。
- ・台風対策がしっかりしていた。
- ・アルバイトを多数配置しているので、案内がスムーズだった。
- ・通路が広く取ってあった。
- ・ホームページでの企業情報検索が充実している。

【改良すべき点 対応できていない】

- ・搬入出の対応が悪い。
- ・館内が暑い。もっと冷房をいれてほしい。
- ・入場証に社名表記がない。
- ・小間割を同じカテゴリーで配置してほしい。
- ・車両の誘導係があまりにいいかげん。アルバイトでももっと教育してほしい。
- ・車両のシステムがわかりにくい。
- ・平日の集客方法を考えて欲しい。

(8) その他の主なご意見、ご要望

「入場システム・導線・入場者証」

- ・追加招待券を無料にしてほしい。
- ・入場証が裏返っていたりして、業種の色分けがわからない。入場証を両面印刷するかまたは、ストラップを色分けしたらどうか。
- ・ブース訪問者を管理するバーコードシステム等がない。
- ・入場証は会社名が分からないので、名刺にしてほしい。
- ・IGASのストラップをJGASにも使うのは、みっともないと思う。

「搬入・搬出について」

- ・搬入時に会場に入るまでのチェックが多く、時間がかかりすぎる。
- ・搬入時の警備スタッフの対応が悪く、入場に手間がかかった。
- ・トラックヤードでの搬出が遠過ぎて不便。
- ・搬出に余裕がほしい。

「駐車証について」

- ・駐車料金が安い。無料で開放してほしい。
- ・駐車証をもっと増やしてほしい。
- ・共同出展者にも駐車証を発行してほしい。
- ・搬出用車両等を臨時駐車場に置かされると不便である。

「会期日程について」

- ・IGASの開催は、5日間で、JGASは、3~4日間でよい。
- ・開催日に日曜、祭日を入れて計画してほしい。
- ・IGASの期間は、大型連休になっておるので、できればこれはずして開催してほしい。

「集客・PR」

- ・来場者が少ない。集客努力をもっとしてほしい。
- ・海外からの来場者が少ない。海外向けのPRを強化してほしい。
- ・イベントが盛り上がり欠けた。事前告知が弱いと思う。

「小間設営について」

- ・小間位置を指定できればいいと思う。
- ・高さ制限をゆるくしてほしい。
- ・小さい小間を東5に集めている為、集客に欠ける。

「電気代について」

- ・電気工事代、電気代の料金設定が不明瞭。
- ・小間代や電気代等安くしてほしい。

「その他」

- ・初出展者には、個別に対応してほしい。
- ・ビアパーティはとてもよい。
- ・主催者の都合に合わせるのが、過度すぎる。
- ・企業情報入力のカテゴリーをもっと細分化してほしい。

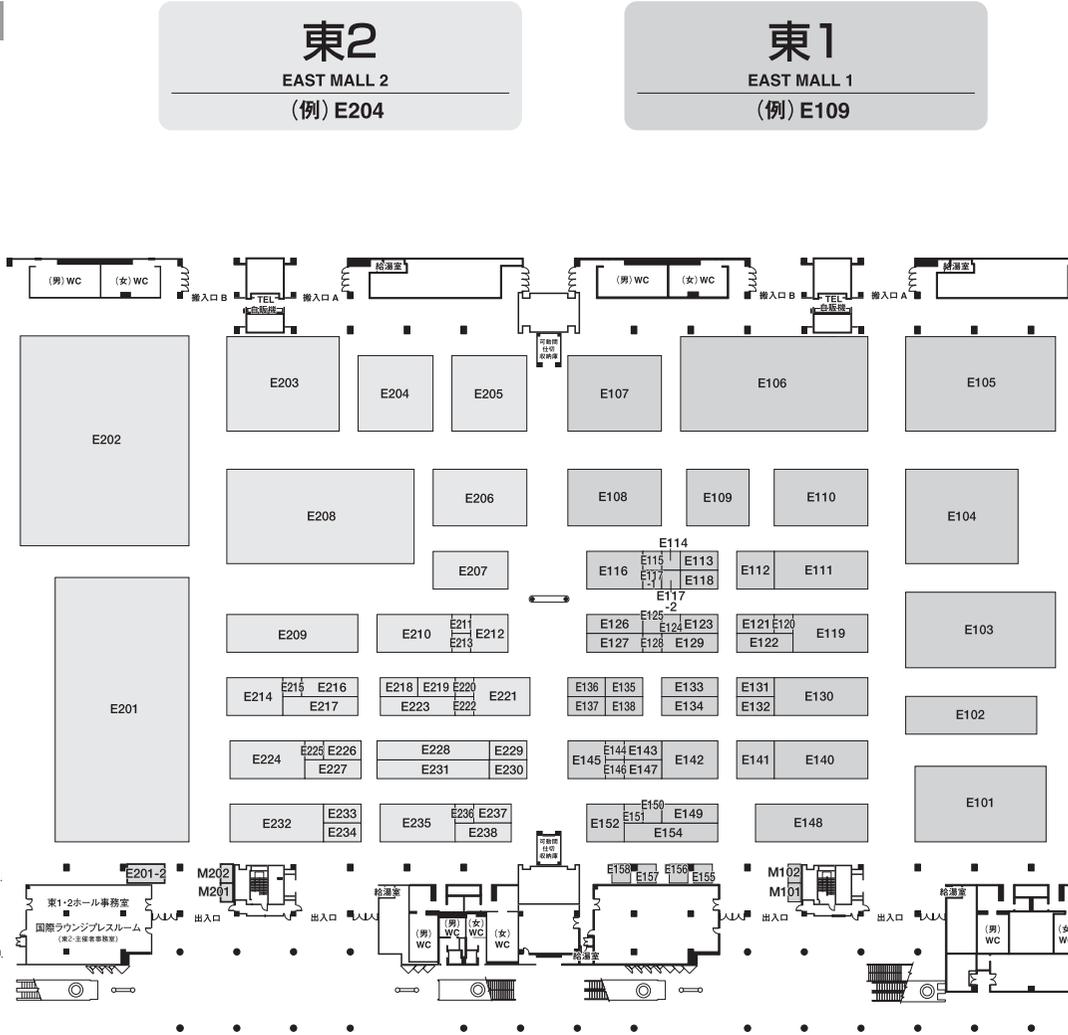
7. JGAS2009出展企業一覧

あ				
株式会社アート・ワタナベ	E125	ケイスカンパニー株式会社	E140	
アイグラフィックス株式会社	E231	株式会社光文堂	E205	
IDT SYSTEMS LIMITED	E158	光陽化学工業株式会社	E423	
IPF株式会社	E140	株式会社コスモサウンド	E528	
アイマー・プランニング株式会社	E233	Cosmo-GBC	E238	
Agor S. L.	E140	株式会社コスモテック	E427	
アコ・プランズ・ジャパン株式会社	E515	コダック株式会社	E502	
旭マシナリー株式会社	E101	コニカミノルタIJ株式会社	E402	
アメラルベルテック株式会社	E536-1	コニカミノルタグラフィックイメージング株式会社	E402	
株式会社アルファー技研	E516	コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社	E402	
アンリマシナリー株式会社	E137	株式会社此花	E221	
株式会社いけうち	E113	株式会社コムテックス	E504	
株式会社一誠堂	E236	株式会社小森コーポレーション	E202	
イーテック株式会社	E206	さ		
株式会社伊原テクニーク	E213	埼玉クスタオフ機材株式会社	E421	
株式会社イリス	E226	株式会社桜井グラフィックシステムズ	E104	
岩崎鉄工株式会社	E102	株式会社笹岡工業	E519	
株式会社いわはし	E424	株式会社サム技研 II	E133	
株式会社インサイト	E561	SUN LLC	E404-3	
印刷OEM研究会	E555	三起機械株式会社	E216	
株式会社印刷学会出版部	M102	三協エアテック株式会社	E155	
株式会社印刷出版研究所	M201	株式会社サンライズカンパニー	E114	
株式会社インターコスモス	E232	GMG GmbH & Co., KG.	E127	
インターテクノ株式会社	E431	GMCソフトウェアテクノロジー日本事務所	E538	
株式会社インターテック	E210	CGS Japan 株式会社	E537	
インフォプリント・ソリューションズ・ジャパン株式会社	E503	株式会社ジーティービー	E521	
ウエノ株式会社	E201-2	株式会社ジェイエンタープライズ	E138	
ウェブテック株式会社	E134	ジェービーイー株式会社	E531	
ウシオ電機株式会社	E413	株式会社ジェビック	E137	
株式会社ウチダテクノ	E508	SHENYANG XINLONGTAI TRADE CO.,LTD	E559	
有限会社内田マシナリー商会	E529	株式会社志機	E108	
株式会社宇野製作所	E227	シトマジャパン株式会社	E409	
株式会社エイ・アイ・シー	E157	シナジーコミュニケーションズ株式会社	E442	
株式会社エイシス	E124	篠田商事株式会社	E207	
エイブリー・デニソン・ジャパン株式会社	E152	株式会社篠原鐵工所	E404	
株式会社エスケイセールス	E405	株式会社芝橋	E218	
エックスライト株式会社	E448	ジャパンカラー認証制度コーナー	E444	
NTTファネットシステムズ株式会社	E416	株式会社正栄機械製作所	E511	
エフソン販売株式会社	E536	昭和情報機器株式会社	E403	
MBO Binder GmbH & Co.KG	E140	株式会社ショーワ	E414	
エルスエンジニアリング株式会社	E120	株式会社伸興	E131	
エレットラ	E234	シンボリック・コントロール株式会社	E117-2	
株式会社大床製作所	E222	スーパー工業株式会社	E536-2	
株式会社大西機械	E221	スーパーファックスインターナショナル株式会社	E526	
株式会社尾埜製作所	E507	西華産業株式会社	E405	
オリオン機械株式会社	E422	株式会社妹尾製作所	E130	
か			た	
カーディナル株式会社	E539	株式会社第一印刷	E115	
有限会社海鴻社	E540	大通機械販売株式会社	E136	
加賀電子株式会社	E433	ダイニック株式会社	E430	
株式会社勝田製作所	E505	大日本スクリーン製造株式会社	E203	
桂川電機株式会社	E509	株式会社太陽機械製作所	E557	
株式会社加貫ローラ製作所	E212	株式会社タカノ機械製作所	E436	
兼房株式会社	E132	株式会社タカラ製作所	E130	
株式会社カラーステーション	E516	ダックエンジニアリング株式会社	E204	
環境コーナー	E449	谷ロッキン製造株式会社	E121	
株式会社木田鉄工所	E224	千葉大学環境リモートセンシング研究センター	E547	
キャンノンマーケティングジャパン株式会社	E208	千葉大学大学院融合科学研究科 (工学部情報画像学科) 視覚工学分野	E543	
京セラ株式会社	E420	千葉大学大学院 融合科学研究科 画像マテリアルコース 小関研究室	E551	
株式会社キングコーポレーション	E522	千葉大学大学院融合科学研究科 像感性工学研究室	E545	
株式会社錦精社	E412	千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻 北村・宮川研究室	E549	
株式会社金陽社	E223	中国印刷及設備器材工業協会	E541-1	
株式会社工藤鉄工所	E206	株式会社中和	E128	
グラバックジャパン株式会社	E518	株式会社塚谷刃物製作所	E142	
クルツジャパン株式会社	E150	筑波大学ILCセンター フルーション研究室	E542	
株式会社クロダ	E417	DIC株式会社	E438	
グンゼ株式会社 SOZ事業本部	E510	株式会社DSメタル	E411	
株式会社ケイアイピー	E509	DKSH ジャパン株式会社	E116	

株式会社テイク	E214	株式会社平河工業社	E415
ディリージャパン株式会社	E404-4	広瀬鉄工株式会社	E204
Tech-ni-Fold Ltd.	E140	フォーレックス株式会社	E517
テクノトランス・アジアパシフィック・リミテッド日本支店	E215	富士機械株式会社	E111
テクノロール株式会社	E145	富士商工マシナリー株式会社	E428
有限会社テシコン	E437	富士製紙企業組合	E126
株式会社TEMCO	E504-2	富士フィルム グラフィックシステムズ株式会社	E106
株式会社デュプロ	E107	富士フィルム シンプルプロダクツ株式会社	E106
東海ビジョン株式会社	E146	株式会社扶桑プレジジョン	E117-1
東京印刷機材トレーディング株式会社	E235	府中紙工株式会社	E130
株式会社 東京機械製作所	E109	株式会社ブラザクリエイト	E513
社団法人東京グラフィックサービス工業会	E442-2	株式会社プリンテックインターナショナル	E533
東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター 色彩画像研究室	E546	株式会社プロスパークリエイティブ	E429
東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター 電子画像研究室	E546	PETRATTO S.r.l	E401-3
東京工芸大学 大学院 ハイパーメディア研究センター 佐藤研究室	E546	株式会社ベルバク	E204
東京出版機械株式会社	E209	方正株式会社	E525
東京障害者職業能力開発校	E554	BOGRAMA AG	E140
東京大学大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 製紙科学研究室	E550	ホリゾン・インターナショナル株式会社	E201
東京電機大学 エルゴノミクスデザイン研究室	E544	株式会社堀鉄工所	E211
東京ラミネックス株式会社	E526	ボンテケミカル株式会社	E530
東京和晒株式会社	E439	ま	
東邦精機株式会社	E217	株式会社マイクロ・テクニカ	E434
東レ株式会社	E110	株式会社マイテック	E219
株式会社トップメール	E534	株式会社マスターマインド	E520
株式会社富田技研	E230	株式会社丸昌	E220
富博産業株式会社	E419	ミシマ株式会社	E527
株式会社トヨテック	E432	三菱重工工業株式会社	E105
都立中央・城北職業能力開発センター	E553	三菱製紙株式会社	E446
トレスジャパン株式会社	E210	株式会社ミマキエンジニアリング	E523
な		株式会社ミヤコシ	E501
永井機械株式会社	E130	株式会社ミュートック	E154
株式会社永井機械製作所	E512	株式会社ムサシ	E430
株式会社ナカタニ	E422	株式会社村田金箔	E123
有限会社ナガノ機械	E514	明和ゴム工業株式会社	E122
有限会社中村印刷所	E144	メディアコンフォート株式会社	E425
株式会社西岡製作所	E111	株式会社メディアテクノロジージャパン	E203
日報出版株式会社	M202	有限会社メニ・テック	E435
日本アグファ・ゲバルト株式会社	E407	株式会社モトヤ	E410
社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)	M401	株式会社モリサワ	E401
社団法人 日本印刷産業機械工業会 / グローバル プリント	E541-2	や	
社団法人日本印刷産業連合会	E450	株式会社山櫻	E149
株式会社日本印刷新聞社	M101	株式会社ヤマダコーポレーション	E129
日本オフィスラミネーター株式会社	E560	株式会社ユナイテッド・カラー・システムズ	E447
社団法人日本グラフィックサービス工業会	E442-2	株式会社ヨシダ機材	E135
日本コーバン株式会社	E426	芳野マシナリー株式会社	E103
日本製図器工業株式会社	E408	株式会社ヨシヤス	E505-2
日本WPA(日本水なし印刷協会)	E110	ら	
日本トレルボルグシーリングソリューションズ株式会社	E524	株式会社ラシュラン	E532
学校法人 日本プリンティングアカデミー	E556	株式会社リコー	E503
日本平版機材株式会社	E441	理想科学工業株式会社	E228
日本ボードウイン株式会社	E112	リョービマジクス株式会社	E506
日本欄野工業株式会社	E118	林栄精器株式会社	E229
ニュープリンティング株式会社	M402	株式会社レザック	E119
は		ローランド ディー.ジー.株式会社	E535
Baumer hhs GmbH	E140	わ	
ハイウイン株式会社	E237	株式会社渡辺護三堂	E143
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社	E406	渡辺通商株式会社	E141
HERZOG+HEYMANN GmbH+Co.KG	E140		
有限会社パシフィック化学	E151		
POWER INDUSTRIAL CHINA LTD.	E225		
株式会社帆風	E440		
ビー・エス・シー株式会社	E401-2		
ピーシーエム株式会社	E401-3		
株式会社ビーバープランニングセンター	E156		
ビービーエム株式会社	E148		
株式会社樋口金十郎商店	E147		
株式会社ビクトリコ	E404-2		
株式会社ヒューテック	E418		

イーストホール1-2

小間番号 Stand No.	出展者 Exhibitor	出展者 Exhibitor
E201	ホリゾンインターナショナル株式会社	HORIZON INTERNATIONAL, INC.
E201-2	ウエノ株式会社	Ueno Corporation
E202	株式会社小森コーポレーション	KOMORI CORPORATION
E203	大日本スクリーン製造株式会社	DAINIPPON SCREEN MFG. CO., LTD.
E203	株式会社メディアテクノロジージャパン	Media Technology Japan Co., Ltd.
E204	広瀬鉄工株式会社	HIROSE IRON WORKS CO., LTD.
E204	ダックエンジニアリング株式会社	DAC ENGINEERING CO., LTD.
E204	株式会社ベルパック	BELPAC CO., LTD.
E205	株式会社光文堂	KOBUNDO CO., LTD.
E206	株式会社工藤鉄工所	KUDO IRON WORKS CO., LTD.
E206	イトテック株式会社	ITOTEC CO., LTD.
E207	篠田商事株式会社	Shinoda & Co., Ltd.
E208	キャンノンマーケティングジャパン株式会社	Canon Marketing Japan Inc.
E209	東京出版機械株式会社	Tokyo Shuppan Machinery Co., Ltd.
E210	株式会社インターテック	INTERTECK CO., LTD.
E210	トレスジャパン株式会社	TRESU JAPAN CO., LTD.
E211	株式会社堀鉄工所	HORI IRON WORKS CO., LTD.
E212	株式会社加賀ロー製作所	KATSURA ROLLER MFG. CO., LTD.
E213	株式会社伊原テクニク	Ihara Electronic Industries Co., Ltd.
E214	株式会社テイク	TAKE INC.
E215	テクノトランス・アジアパシフィック・リミテッド日本支店	technotrans asia-pacific limited
E216	三起機械株式会社	Sanki Machinery Co., Ltd.
E217	東邦精機株式会社	TOHO SEIKI CO., LTD.
E218	株式会社芝橋	SHIBAHASHI CO., LTD.
E219	株式会社マイテック	MITEC CORPORATION
E220	株式会社丸昌	MARUSHO CO., LTD.
E221	株式会社此花	KONOHANA CO., LTD.
E221	株式会社大西機械	OHNISHI KIKAI CO., LTD.
E222	株式会社大床製作所	OTOKO MACHINERY WORKS, LTD.
E223	株式会社金陽社	KINYOSHA CO., LTD.
E224	株式会社木田鉄工所	KIDA IRON WORKS CO., LTD.
E225	POWER INDUSTRIAL CHINA LTD.	POWER INDUSTRIAL CHINA LTD.
E226	株式会社イリス	K.K. IRISU
E227	株式会社宇野製作所	UNO SEISAKUSHO CO., LTD.
E228	理想科学工業株式会社	RISO KAGAKU CORPORATION
E229	林業精器株式会社	REPIC CORPORATION
E230	株式会社富田技研	Tomitagi Co., Ltd.
E231	アイグラフィックス株式会社	EYE GRAPHICS CO., LTD.
E232	株式会社インターコスモス	INTER COSMOS CORPORATION
E233	アイマー・プランニング株式会社	I.Mer co., Ltd.
E234	エレトラ	Eletra S.r.l.
E235	東京印刷機材トレーディング株式会社	Tokyo Printing & Equipment Trading Co., Ltd.
E236	株式会社一誠堂	ISSEIDO
E237	ハイウイン株式会社	HIWIN CORPORATION
E238	Cosmo-GBC	Cosmo-GBC
M201	株式会社印刷出版研究所	PRINTING & PUBLISHING INSTITUTE CO., LTD.
M202	日報出版株式会社	NIPPO PUBLISHING CO., Ltd.



東2 EAST MALL 2 (例) E204

東1 EAST MALL 1 (例) E109

小間番号 Stand No.	出展者 Exhibitor	出展者 Exhibitor
E151	有限会社パシフィック化学	PACIFIC CHEMICAL CO., LTD.
E152	エイブリー・デニソン・ジャパン株式会社	Avery Dennison Japan K.K.
E154	株式会社ニューテック	MUTECH Co., Ltd.
E155	三協エアテック株式会社	SANKYO AIR TECH CO., LTD.
E156	株式会社ビーバープランニングセンター	BEAVER PLANNING CENTER
E157	株式会社エイ・アイシー	AIC, INC.
E158	IDT SYSTEMS LIMITED	IDT SYSTEMS LIMITED
M101	株式会社日本印刷新聞社	JAPAN PRINTING NEWS CO., LTD.
M102	株式会社印刷学会出版部	INSATSU GAKKAI SHUPANBU Ltd.

小間番号 Stand No.	出展者 Exhibitor	出展者 Exhibitor
E101	旭マンナリー株式会社	ASAHI MACHINERY LTD.
E102	岩崎鉄工株式会社	Iwasaki Tekko co., Ltd.
E103	芳野マンナリー株式会社	YOSHINO MACHINERY CO., LTD.
E104	株式会社桜井グラフィックシステムズ	SAKURAI GRAPHIC SYSTEMS CORPORATION
E105	三菱重工株式会社	Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
E106	富士フィルム グラフィックシステムズ株式会社	FUJIFILM Graphic Systems Co., Ltd.
E106	富士フィルム シンプルプロダクツ株式会社	FUJIFILM Simple Products Co., Ltd.
E107	株式会社デュプロ	DUPLO CORPORATION
E108	株式会社志機	SHIKI CORPORATION
E109	株式会社東京機械製作所	Tokyo Kikai Seisakusho, Ltd. (TKS®)
E110	東レ株式会社	Toray Industries, Inc.
E110	日本WPA (日本水なし印刷協会)	JWPA (JAPAN WATERLESS PRINTING ASSOCIATION)
E111	株式会社西岡製作所	NISHIOKA MFG. CO., LTD.
E111	富士機械株式会社	FUJI KIKAI CO., LTD.
E112	日本ボールウイン株式会社	BALDWIN-JAPAN LTD.
E113	株式会社いけうち	H.IKEUCHI & CO., LTD.
E114	株式会社サンライズカンパニー	SUNRISE COMPANY LIMITED
E115	株式会社第一印刷	Daiichi Printing Co., Ltd.
E116	DKSH ジャパン株式会社	DKSH JAPAN K.K.
E117-1	株式会社扶桑プレジジョン	FUSO PRECISION CO., Ltd.
E117-2	シンボリック・コントロール株式会社	Symbolic Control Inc.
E118	日本欄野工業株式会社	NIHON RANKEI KOGYO CO., LTD.
E119	株式会社レザック	LASERCK CORPORATION
E120	エルスエンジニアリング株式会社	ELS ENGINEERING CO., LTD.
E121	谷口インキ製造株式会社	TANIGUCHI INK MFG. CO., LTD.
E122	明和ゴム工業株式会社	MEIWA RUBBER CO., LTD.
E123	株式会社村田金箔	MURATA KIMPAKU CO., LTD.
E124	株式会社エイシス	ASYS INC.
E125	株式会社アート・ワタナベ	ART WATANABE CO., LTD.
E126	富士製紙企業組合	FUJI PAPER MILLS COOPERATIVE
E127	GMG GmbH & Co., KG.	GMG GmbH & Co., KG.
E128	株式会社中和	CHUWA CO., LTD.
E129	株式会社ヤマダコーポレーション	YAMADA CORPORATION
E130	永井機械株式会社	NAGAI MACHINERY CO., LTD.
E130	府中紙工株式会社	Fuchu Shiko Co., Ltd.
E130	株式会社妹尾製作所	Senoo Seisakusho
E130	株式会社タカラ製作所	Takara Seisakusho
E131	株式会社伸興	SHINKO CO., LTD.
E132	兼房株式会社	KANEFUSA CORPORATION
E133	株式会社サム技研 II	SOME ENGINEERING SECOND CORP.
E134	ウェブテック株式会社	WEBTECH CO., LTD.
E135	株式会社ヨシダ機材	YOSHIDAKIZAI CO., LTD.
E136	大通機械販売株式会社	DAITSU MACHINERY CO., LTD.
E137	株式会社ジェビック	JEPIIC Company Ltd.
E137	アンリマンナリー株式会社	ANRI Machinery Co., Ltd.
E138	株式会社ジェエントワープライズ	Jay Enterprises, Limited
E140	ケイズカンパニー株式会社	K's Company Ltd.
E140	IPF株式会社	IPF Inc.
E140	Baumer hhs GmbH	Baumer hhs GmbH
E140	HERZOG+HEYMANN GmbH+Co.KG	HERZOG+HEYMANN GmbH+Co.KG
E140	BOGRAMA AG	BOGRAMA AG
E140	Tech-ni-Fold Ltd.	Tech-ni-Fold Ltd.
E140	MBO Binder GmbH & Co.KG	MBO Binder GmbH & Co. KG
E140	Agor S. L.	Agor S. L.
E141	渡辺通商株式会社	WATANABE TSUSHO CORP.
E142	株式会社塚谷刃物製作所	TSUKATANI HAMONO MFG. CO., LTD.
E143	株式会社渡辺護三堂	WATANABE-GOSANDO CO., LTD.
E144	有限会社中村印刷所	NAKAMURA PRINTING CO., LTD.
E145	テクノロール株式会社	TECHNO ROLL CO., LTD.
E146	東海ビジョン株式会社	TOKAI VISION CO., LTD.
E147	株式会社樋口金十郎商店	HIGUCHI KINJURO SHOUTEN CO., LTD.
E148	ビービーエム株式会社	PBM CO., LTD.
E149	株式会社山櫻	YAMAZAKURA CO., LTD.
E150	クルツジャパン株式会社	KURZ JAPAN LIMITED

JGAS 2009 運営組織

【印刷機材団体協議会 役員】

会長	小森 善治	社団法人 日本印刷産業機械工業会 会長
副会長	山本 幸平	印刷機材輸入協議会 会長
副会長	小江 紘司	印刷インキ工業会 会長（～2009年6月）
	佐久間国雄	印刷インキ工業会 会長（2009年6月～）
副会長	井上 伸昭	製版機材協議会 会長
副会長	樋口 恭司	社団法人 日本印刷産業機械工業会 専務理事

[JGAS 2009事務局]

樋口 恭司	印刷機材団体協議会 副会長
加瀬 元禮	印刷機材団体協議会 代表幹事
長沼 勉	社団法人 日本印刷産業機械工業会 事務局長
小松原正志	印刷インキ工業会 専務理事
関本 仁志	印刷機材輸入協議会 事務局長
難波 利行	製版機材協議会 事務局長
二茅 孝文	株式会社 印刷出版研究所 専務取締役
佐藤 貞示	印刷機材団体協議会
上滝 通泰	印刷機材団体協議会

[JGAS 2009企画委員会]

委員	森田 武	株式会社 エスケイセールス
委員	桐栄 敬二	大日本スクリーン製造 株式会社
委員	山口 秀昭	株式会社 小森コーポレーション
委員	山内 豊	社団法人 日本印刷産業連合会
委員	植栗 正雄	社団法人 日本印刷産業連合会
委員	弓木 慶一	社団法人 日本印刷学会
委員	沼尾 佳憲	株式会社 印刷出版研究所
委員	ホルガー ヴィッティヒ	印刷機材団体協議会



今後の開催予定



IGAS 2011

2011年9月16日(金)~21日(水)
東京ビッグサイト



JGAS 2013

2013年10月(予定)
東京ビッグサイト

JGAS 2009 事業報告書

発行 印刷機材団体協議会

〒105-0011

東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館401-2

(社)日本印刷産業機械工業会内

TEL:03-3434-2656 FAX:03-3434-0301